

花とホタルで広がる夢交流



長門市と下関市には、金子みすゞをはじめ、くじらや花、ホタルなどの共通の観光資源があり、この春、両市長が俵山しゃくなげ園と長正司公園をお互いに訪問するなど、観光分野での交流が進んでいる。

平成17年度から長門市と下関市の両市長のトップ会談が毎年行われています。この中でくじらや金子みすゞなど共通の観光資源を有していることから、観光面で交流を促進しようという合意がなされました。

これにより平成19年度には新下関駅と仙崎駅を結ぶ観光列車「みすゞ潮彩」の運行が実現し、多くの観光客が両市を訪れるようになりました。

そして、このほど、長門市と下関市は木屋川の源流が俵山ということもあり、木屋川関連の観光を連携しようと、花とホタルをテーマに両市の交流が進んでいます。4月19日には下関市長が俵山のしゃくなげ園を、4月22日には長門市市長が藤の花で

①俵山のしゃくなげ園を散策する松林市長(中央)と江島下関市長(左)。しゃくなげについて説明をするしゃくなげ園長の金川さん(右) ②多くの観光客でにぎわうしゃくなげ園内。白やピンク、紫、赤など色とりどりの花が咲き乱れていて訪れる人の目を楽しませています



③長正司公園(下関市豊田町)「ほたる茶屋」のオープニングテープカット ④長正司公園のフジ棚



ながと花(ホタル)めぐりマップ

しゃくなげー我が人生

俵山しゃくなげ園
園長 金川 鐵夫さん

しゃくなげとの出会いーそれは金川さんが40年前に、たまたま立ち寄ったスパーに置いてあった鉢植えのしゃくなげの美しさに「ハッ」としたことがきっかけとのこと。もともと花が好きだった金川さんは、ぜひこのしゃくなげに挑戦したいと思ったそうです。ところが、そのことを知人に話したところ素人には無理だ、と一笑に付された



ため持ち前の反骨精神に火がつき「よし絶対に育ててやる」と決意をしたのだそうです。

はじめの頃は枯れてしまうこともありました。種から育てるようにし、交配を繰り返して俵山の風土に合った品種に改良していったところ、今では2ヘクタールの敷地に130種、2万本余りが花をつけるまでになりました。最近ではテレビや新聞で紹介され、県内外から多くの観光客が訪れるようになり、今年には二井山口県知事や長門市・下関市の両市長がそろって訪れるなどさらに注目を集めています。

「交配で他にはないような花の色が出たときが一番うれしいです。毎年たくさんの方が訪れてくれてありがたい、相乗効果で地域の活性化にもつながればいいですね。」と金川さん。今後も増やしていきたいとますます意気軒昂です。

有名な下関市豊田町の長正司公園を訪れました。

関係者の努力が実り、下関市から長門市俵山への観光ルートが定着し観光客数も順調に伸びているということ。今後、両市では、こうした観光連携事業を進めていくことで、長門市の俵山温泉、油谷湾温泉、下関市のホタル街道、角島といった観光資源を周遊ルートで結び、循環滞在型の観光を促進していくこととしています。

一方、長門市内では、俵山のしゃくなげ園、飯森山公園の菖蒲園、美術館のハーブ園、向徳寺のあじさい園をそれぞれ管理している個人・団体の代表者で組織する長門花めぐり連携会議が「ながと花めぐりマップ」を作成し、訪れる観光客にPRを行ったり相互の情報交換を行ったりしています。これからの季節、飯森山公園の菖蒲園、美術館のハーブ園、向徳寺のあじさい園と各地で見頃を迎えます。

さらに、ホタルも見頃となります。市内では、渋木のホタル橋、俵山の七重や黒川、三隅の宗頭、油谷の大坊川田上付近、など、下関市の豊田町木屋川や豊北町栗野川流域で美しいホタルの乱舞が見られるということです。ぜひ出かけてみてはいかがでしょうか。